

# 文学部総合文化学科のカリキュラム改編について

建石 始

## 1. はじめに（カリキュラム改編の背景）

少子化による志願者減少の影響を受け、神戸女学院大学は2021年12月ごろからさまざまな動きがあった。その動きの結果として、2024年に国際学部と心理学部が、2025年に生命環境学部が創設された。文学部総合文化学科についても、「文学部」という名称をどうするのか、「総合文化学科」という名称はそのままでもいいのか、「リベラルアーツ教育」をどう維持して広報につなげていくのかなど、さまざまな検討が重ねられた。その結果、学部・学科の改組は行わず、「文学部総合文化学科」を継続したままカリキュラム改編を行うこととなった。以下では、従来のカリキュラムのメリット・デメリットを確認しながら、新カリキュラムの特徴などを説明したい。

## 2. 従来のカリキュラムのメリット・デメリット

2024年度までのカリキュラム（以下では、「従来のカリキュラム」と呼ぶ）は2013年度から始まった。それまでのカリキュラムでは、「現代国際文化コース」「日本アジア・文化コース」「人文・ヨーロッパコース」「現代社会・福祉コース」という4つのコースが設けられていたものの、単位を取得しやすい科目のみを履修して卒業する学生がいたこと、総合文化学科の良さを外部に宣伝する必要があったこと、質の高い学生を確保したかったことなどを総合的に判断して、従来のカリキュラムができあがった。

それは、「宗教学」「欧米の文化と歴史」「哲学・倫理学・美学」「社会学・メディア」「日本語・日本文学」「経済学・法学・国際関係論」「日本・アジアの文

化と歴史」「社会福祉・子ども」という8つの専攻科目群に分かれたものである。どの学生もその中から主専攻24単位、副専攻12単位を履修しなければならないため、このカリキュラムはいわば「ディシプリン型のカリキュラム」や「専攻重視型のリベラルアーツ」とでも呼ぶべきものとなった。

このカリキュラムによって専門領域が見えやすくなり、取得しやすい科目のみを履修して卒業する学生は以前に比べるといなくなった。しかし、主専攻24単位、副専攻12単位はあくまで推奨であること、「2つの専攻」は機械的な選択に陥りがちになっていたこと、組み合わせは本当に2つだけでよいのかなどの問題を抱えていた。

### 3. 新カリキュラムとは

#### 3.1 課題探究型のカリキュラム

そこで、新しいカリキュラムでは、「課題探究型のカリキュラム」「課題探究型のリベラルアーツ」を目指すことになった。具体的には、「人間」「文化」「社会」という3つの領域による課題探究型のカリキュラムである。それによって、主題中心、問い中心の探索的な学びを推進するカリキュラムの作成を目指したのである。

そのために、まず従来のカリキュラムにおける8つの専攻科目群を解体して、「人間」「文化」「社会」という3つの領域を設定して、従来の科目をそこに配置する作業を行った。その際、ただ単に科目を並び替えるのではなく、「入門科目」「概論科目」「専門科目」という区分を設けた。従来のカリキュラムでも、「基礎ゼミ」「文献ゼミ」「専攻ゼミ」という積み上げ型のゼミを展開していたが、それらの名称を「入門ゼミ」「探究ゼミ」「専門ゼミ」に改め、各科目（メジャー科目）においても積み上げることを取り入れた。これは「学生が主体的に自分の課題を見つけ、最終的に卒業論文作成という成果を出すこと」をサポートするためである。「入門科目」「概論科目」「専門科目」のそれぞれの位置づけは以下の通りである。

【入門科目】専門的知識なしに、具体的事象を出発点にして学問に触れることに焦点を置いた科目群。

【概論科目】学問の全体像を体系的に伝えることに焦点を置いた科目群。

【専門科目】概論科目で示した学問体系の一部に焦点を置いて解説する科目群。

従来のカリキュラムでは、主専攻 24 単位、副専攻 12 単位という縛りを設けていたが、それをなくして、新たに以下のような縛りを設けた。理由とともに、示しておく。

「入門科目」：3 領域 8 単位

【理由】早い段階でいろんな領域に触れてほしいため。

2 年次終了時までの取得を目安として指導する。

「概論科目」：3 領域 6 単位

【理由】2 年生以上でも 3 領域を学んでもらうため（学びの継続性）。

入門科目からの積み重ね。

「専門科目」：24 単位以上

【理由】入門科目と概論科目だけで卒業することを防ぐため。

学生は、ゼミ（入門ゼミ→探究ゼミ→専門ゼミ）での学びを進めるのと並行し、各学年に段階的に配置された科目（入門科目、概論科目、専門科目）を履修することを学びのメインとする。

### 3.2 サポート科目の新設

さらに、メインの学びをサポートするため、外国語セミナー、専門探究に必要な方法論、新プロジェクト科目の内容や構成の再検討を行った。その結果、従来の「外国語セミナー」については、

- ・3 年次以上に対する語学学習の機会として外国語セミナーを継続。
- ・これまでのような専門領域の学びのための外国語文献講読としてよりは、専門での学びに必要な外国語学習をサポートするための科目という位置づけ。
- ・外国語を読むという方向性は継続する。

という理念とともに、「外国語プラス」という名称変更を行った。

また、「社会学・メディア」のなかにあった「社会調査関連科目」を、学生の専門的学びをサポートする科目群として取り出し、「研究方法サポート科目」という名称をつけた。具体的には、「リサーチ・リテラシー」「リサーチ・メソッド」「質的研究法」「量的研究法」という4つの科目をそこに配置した。

さらに、従来のカリキュラムから始まった「プロジェクト科目」を新たに「総文プロジェクト」としてリニューアルを行った。今回のリニューアルでは、1年生後期からプロジェクト科目を通して総合文化学科の学びを体験することを目的とした。また、従来はフィールドワークに行くことが必須となっていたが、オムニバス形式の座学のみも含めることにして、多様な教員が担当できる科目とした。

#### 4. おわりに

ここまで述べてきたことをまとめると、次ページのような表になる。

学問分野を積極的に横断することによって、従来の専攻重視型のカリキュラムから、課題探究型の学びにむけたカリキュラム変更を進め、文学部総合文化学科ならではの新しいリベラルアーツ教育を実現したいと考えている。新しく生まれ変わる文学部総合文化学科に対して、変わらぬご支援を賜うことができれば幸いである。

#### 謝辞

今回のカリキュラム改編について、カリキュラム検討委員会の栗山圭子先生、三杉圭子先生、大澤香先生、清水学先生のご尽力がなければ完成しなかったと思います。また、カリキュラム作業部会として、朴秀娟先生、傅喆先生、藤岡達磨先生、岩間文雄先生、景山佳代子先生、桐生裕子先生、北川将之先生、小林隆道先生、栗山圭子先生、奥野佐矢子先生、大澤香先生、佐藤園子先生、田村美由紀先生、戸江哲理先生のお力添えをいただきました。先生方のお力添えのおかげで新しいカリキュラムがスムーズに運用されるようになったと感じております。ここに記して感謝を申し上げます。

	従来のカリキュラム（2024年度まで）	新しいカリキュラム（2025年度から）
科目の分類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8つの専攻科目群</li> <li>・主専攻と副専攻の組み合わせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの領域【人間】【文化】【社会】</li> </ul>
学びの縛り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主専攻24単位、副専攻12単位を履修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入門科目は各領域から2単位ずつで合計8単位以上を履修</li> <li>・概論科目は各領域から2単位ずつで合計6単位以上を履修</li> <li>・専門科目は合計24単位以上を履修</li> </ul>
科目番号と科目名称	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100番台が1年生、200番台が2年生などではできているが、科目分類は未実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「入門科目」「概論科目」「専門科目」に分類</li> </ul>
求める高校生像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やりたいことがまだ見つからない</li> <li>・漠然と学びを深めたい</li> <li>・いろんなことを学びたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行のイメージを活用できる</li> <li>・「私は〇〇に興味があります！」と言えるように導く</li> </ul>
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻科目群がたくさんあるので迷える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行のメリットを活用できる</li> <li>・自分で学びをデザインできる</li> <li>・リベラルアーツを実践できる</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主専攻、副専攻の組み合わせが難しい</li> <li>・学びの組み合わせは2つしかないかのように見える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体性が求められる（自身の興味を見つける負担が大きい？）</li> <li>・（一見すると）何を学ぶのかが見えにくい？</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポート科目を設置</li> <li>・外国語科目、研究方法サポート科目、総文プロジェクト</li> </ul>

（文学部総合文化学科教授）